

平成25年12月8日  
今週のベストショット



奈多グラウンド第2試合 雁ノ巣ライナース 対 奈多クラブ戦

奈多クラブ四番阿部健太選手は、その豪快なスイングで初回到先制2ランを放った。

写真：奈多フェニックス 今林英二

奈多グラウンド① 両軍合わせて25安打の乱打戦を制したホーネッツ！！

レッドサンデーズ（3勝9敗1分）25000 7 嶋村●、土師一田中

三苦ホーネッツ（8勝5敗0分）45100× 19 井手、矢野○ー松尾

HR：嶋村（レッド）山崎（三苦ホ）3BH：八島、前田（レッド）、山崎、矢野（三苦ホ）

2BH：三浦（三苦ホ）盗塁：八島（レッド）、山崎、矢野、広木、今田（三苦ホ）

初回到2点を先制したレッドサンデーズであったが、その裏ホーネッツは連打で4点を返しすぐさま逆転する。2点を追うレッドサンデーズは二回表、先頭の七番前田選手がレフト線三塁打を放ち突破口を作ると、九番田浦選手のスクイズで1点を返す。その後一死二、三塁のチャンスを作ると二番八島選手の左中間を破る適時三塁打で逆転。その後も1点を返し、四番嶋村選手の右中間に放り込む特大の本塁打でこの回5点目。リードを守りたいレッドサンデーズであったが、先頭の山崎選手を出塁させ、エラーやフォアボールなどで塁を埋められると七番井手選手の適時打で再び逆転を許してしまう。ここまでは両チーム一歩も譲らない展開ではあったが、三回から登板した矢野投手によって試合の流れはホーネッツに。三回を0点に抑えると、その裏にはホーネッツ打線が爆発。山崎選手のこの日4本目の安打となる3ラン本塁打を含めた9安打10得点の猛攻で一気に突き放す。その後も矢野投手の追加点を許さない好投でホーネッツがレッドサンデーズとの今年の最終戦を制した。

（記事、写真：雁ノ巣ライナース 明瀬 旭）





ホーネッツ先発の井手投手



レッドサンデーズ先発の嶋村投手。



試合の流れを引き寄せる好投をしたホーネッツ矢野投手。



1 イニングながらホーネッツ打線を0 点に抑える土師投手。



二回表、逆転の突破口となる三塁打を放った前田選手。



3 安打の八島選手(左)と右中間へ特大本塁打の嶋村選手(右)。



この日 4 安打目となる 3 ランを放ったホーネッツ山崎選手。



## 奈多グラウンド② 奈多クラブ今林瑠生投手が13奪三振ショー、接戦を制す！！

雁ノ巣ライナーズ（6勝4敗3分）0 1 0 0 0 0 1 鳥越●－明瀬（旭）  
奈多クラブ（9勝1敗3分）2 0 0 0 2 X 4 今林（瑠）○－安河内

HR：安部（健）（奈多ク） 3BH：鳥越（雁ノ巣）

一回表、勝てば単独の準優勝となる奈多クラブ先発の今林（瑠）投手が三者連続三振で幸先よくスタートを切る。その裏奈多クラブは四番安部（健）選手の右中間への本塁打で2点を先制。二回表雁ノ巣ライナーズは、先頭の宇野選手が倒れ、五番明瀬（旭）選手が四球を選ぶと、続くピッチャーの鳥越選手自らが右中間への三塁打を放ち1点を返す。同点へのチャンスかと思われたが、今林（瑠）投手が二者連続三振に打ち取りピンチを切り抜ける。その後試合は硬直状態になり、迎えた五回裏奈多クラブは、一死から一番今林（賢）選手が出塁すると、続く二番今林（瑠）選手のレフト前安打で一三塁へ進める。ここでライナーズに内野ゴロエラーとワイルドピッチが出て2点を献上。ダメ押しで奈多クラブが単独準優勝を決める勝利を掴んだ。この試合2度のピンチをすべて三振で切り抜けた今林（瑠）選手の13奪三振ショーが印象的だった。

（記事：奈多フェニックス 今林文彦、写真：今林英二）



先制2ランを放った奈多クラブ四番安部健太選手。



力投も最後で力尽きた雁の巣ライナーズ鳥越選手。



自らのバットで打点を挙げるライナーズ鳥越選手。



13奪三振を奪った奈多クラブ今林（瑠）選手。





勝利のガッツポーズ奈多クラブ安河内捕手とVサインの今林瑠生投手。

### 和白交流グラウンド ソルトベ이스ターズが最終戦を逆転勝利で飾る！

新町パイレーツ (6勝6敗1分) 10000 1 八坂●-田村、白岩(将)  
 ソルトベ이스ターズ(5勝7敗1分) 41010 6 鶴野○、中村(耕)-酒井

2BH: 中村(建)(ソルト)

今シーズン最終戦は、初回パイレーツが1点を先制するも、その裏ソルトは相手のWPですぐに同点に追いつくと、四番中村(耕)選手のセンター前タイムリーで逆転に成功。さらに六番鶴野選手のライトオーバーで追加点を挙げ試合を優位に進める。二回にも相手のWPに乗り追加点を挙げた。その後もパイレーツ打線の反撃を継投で無得点に抑え、最終戦を勝利で飾った。パイレーツは毎回のようにランナーを出しながらも得点を奪えず、ピンチを招いた場面で守備が乱れ敗戦に繋がってしまった。(記事、写真: 奈多サンデーズ 鳥羽晃弘)



ソルトベ이스ターズ先発の鶴野投手。



パイレーツ先発の八坂投手。



ソルトベ이스ターズ二番手の中村(耕)投手。



初回、逆転タイムリーを放つ四番の中村(耕)選手。





初回、3点目を狙ったソルト森選手だったが・・・



間一髪、本塁タッチアウト！残念。



満を持して、「代打、オレ！」ソルトベ이스ターズ石井監督登場。

## 第26週編集後記

WSLの皆さん、こんにちは！

第26週の編集後記を書いていないことに納会前日に気づきました。

第26週、12月8日は3試合が行われました。

奈多グラウンド第1試合のレッドサンデーズ対三苦ホーネッツ戦は、初回から点の取り合いでした。幸先よく2点を先制したレッドでしたが、取っては吐き出す大盤振る舞いは最終戦でも健在。一方ホーネッツは井手投手からスイッチした矢野投手が三回以降ランナーを出すものの無失点で切り抜ければ、打線は大爆発。山崎選手の四打数四安打を皮切りに19得点を奪い、7-19の大逆転勝利。レッドは最終戦にて初めてフルメンバーが揃ったものの勝利を手にはすることは出来なかった。

奈多グラウンド第2試合の雁ノ巣ライナーズ対奈多クラブ戦は、初回のチャンスに奈多クラブ四番安部（健）選手のHRで先制すると、投げては今林（瑠）投手の13奪三振。ライナーズは鳥越投手が放った三塁打で1点を返すのがやっと。五回裏にも一番今林（賢）、二番今林（瑠）選手の連打から決定的な2点を奪った奈多クラブが1-4で勝利を収め、単独2位でフィニッシュ。昨年11位からのジャンプアップな一年だった。

和白交流グラウンドの新町パイレーツ対ソルトベイズスターズ戦は、初回内野安打で1点を先行したパイレーツだったが。その裏ソルトが4本のヒットを集め4点と早々に逆転すると、二回表のピンチを抑え、二回・四回裏に1点ずつ加える。三回以降パイレーツ打線をノーヒットに抑え、1-6でソルトの勝利。敗れたパイレーツは昨年2位から優勝を狙ったが勝率5割に終わった。

これで全日程が終了。残すは1月19日の納会だけとなりました。

熾烈なタイトル争いも、最終戦で大どんでん返しが・・・。

表彰式をお楽しみに～！